

(様式1)

鎌ヶ谷市立第四中学校 第1学年 1学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【第1章：世界と日本の姿】

- ・地球儀や世界地図を使って、六大陸と三大洋の位置や大きさを覚える。また、世界はどのような地域区分（州）に分けられているのか理解する。地球儀や世界地図を使って、主な国々の名前と位置を覚える。
- ・緯度と経度を使って、国や都市の位置をより正確に表す方法を身に付ける。
- ・世界における日本の位置関係や日本国内における都道府県の位置関係を把握する。

【第2章：世界各地の人々の生活と環境】

- ・世界各地の人々の暮らしの特徴について調べ、理解を深める。
- ・世界にはどのような気候があるのか理解する。雨温図から世界の気候を読み取る方法を身に付ける。

【第3章：世界の諸地域（アジア州・ヨーロッパ州）】

- ・アジア州、ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を資料から読み取り、各州の特色を理解する。

【評価の観点及び内容】

◆ [知識・技能]

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較し、違いや特徴を読み取ることができるか。

◆ [思考・判断・表現]

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

◆ [主体的に学習に取り組む態度]

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだこと活用して内容をまとめることができる。

【評価の方法】

◆ [知識・技能]

- ・テストなどによる知識を問う問題
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題

◆ [思考・判断・表現]

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめる

◆ [主体的に学習に取り組む態度]

- ・定期テストによる総合的な理解度（ワークの取り組み状況との関連性）
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・定期テストで時事問題を出題します。

【学びを高める学習方法アドバイス】

（1）学習方法

- ・授業の持ち物…地理の教科書、資料集、地図帳、ワーク、ノート（A4サイズがおすすめです）
- ・プリントの取り方…自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題は、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・家庭学習…（予習）教科書を読む。（復習）学習した範囲のワークをワークノートに解く。

（2）授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。（話は目と耳と心で聞く）話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・プリントは黒板の内容を写すだけのものではありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったこともノートにメモをとしましょう。

【教科担任からのメッセージ】

社会の授業は「暗記をしなけばいけない」というイメージがありますが、暗記だけでなく、学んだ知識を活用して考えることが重要です。

社会科は、生活に身近なことや今起きているニュースも含めて様々なことを学びます。自分のこととして捉えて学習することが大切です。特に地理で学ぶ地形や気候が歴史や政治、経済に影響していることがたくさんあり、知っているニュースをもっと身近に感じ、興味をもてるようになります。そして、世の中のことがわかるようになります。

(様式2)

月	時配	学習する内容(時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけても らいたい学習内容・力	家庭学習の 要点
4 月	1	オリエンテーション(1) ・社会科の授業の進め方と小学校の振り返り ・実力テスト	中学校の社会科では何を勉強するのか理解する。	・ノートの取り方がわかること。 ・授業中の意識するポイントがわかること。 ・予習と復習の勉強方法についてわかること。	(予習)教科書を読む。 (復習)授業で学習した内容に係るワークを解く。(以下1～3学期の全ての学習においても共通)
	4	第1編1章 世界の姿(4) ・世界の姿を見てみよう(1) ・世界の様々な国々(1) ・地球上の位置を表そう(1) ・地球儀と世界地図を比べてみよう(1)	①地球儀や世界地図を使って、大陸と海洋、主な国々の名前や位置を理解する。 ②緯度や経度を使って、国や都市の位置を正確に表すことができるようにする。 ①、②を通して、世界の地域構成を理解する。	・六大陸と三大洋、州の区分がわかること。また、世界の主な国々の名前や位置を覚えること。(50国程度) ・緯度、経度など基本的な語句の意味が分かること。また、地図帳を使って国の位置を調べられるようになること。	※重点学習項目 ・六大陸と三大洋の名前と位置 ・緯度、経度の語句の意味。 ・緯度、経度を使って位置を表す方法。
5 月	5	第1編2章 日本の姿(5) ・日本の位置(1) ・日本と世界の時差(1) ・日本の領域の特色(1) ・領土をめぐる問題をかかえる島々(1) ・日本の都道府県(1)	①地球儀や世界地図を使うと、日本の位置はどのように表すことができるか理解する。 ②時差はなぜ生じるのかを理解する。また、日本と他国の時差はどれくらいあるのか計算で求められるようにする。 ③日本の領域について知り、領域を定めるにあたり各国との領土、領海における問題が生じていることを理解する。 ④日本の47都道府県の成り立ち、位置、県庁所在地を理解する。	①地球上の日本の位置を表すことができるようになること。 ②時差の意味を知り、簡単な時差の計算ができるようになること。 ③領土、領海、領空の言葉の意味が分かり、日本も領土、領海における問題をかかえていることがわかること。 ④47都道府県の位置と名前が書けるようになること。	※重点学習項目 ・時差の簡単計算 ・領域の意味 ・47都道府県の位置と名前を完璧にする。
	3	第2編1章 世界各地の人々の生活と環境(9) ・世界のさまざまな住居(1) ・雪と氷の中で暮らす人々(1) ・寒暖の差が激しい土地に暮らす人々(1)	①世界各地の人々の暮らしの特徴について調べて理解を深める。 ②世界にはどのような気候があるのか理解する。 ③雨温図の読み取りかたを身に付ける。 ①から③を通して、世界に暮らす人々の生活の特徴を理解する。	・写真や資料から世界各地の人々の生活の特徴が読み取れること。 ・世界各地は5つの気候帯に分かれているのがわかること。 ・雨温図の読み取りができること。また、同じ気候帯でも位置によって気候区分が違ってくるのがわかること。	※重点学習項目 ・数値を基に雨温図を作成できるようにする。 ・5つの気候帯が世界のどの地域に広がっているか。
6 月	6	・温暖な土地に暮らす人々(1) ・乾燥した土地に暮らす人々(1) ・常夏の島で暮らす人々(1) ・標高の高い土地に暮らす人々(1) ・世界に見られるさまざまな気候と広がり(1) ・伝統的な生活とその変化(1) ・定期テスト(1)	①世界各地の人々の暮らしの特徴について調べて理解を深める。 ②世界にはどのような気候があるのか理解する。 ③雨温図の読み取りかたを身に付ける。 ①から③を通して、世界に暮らす人々の生活の特徴を理解する。 ・これまで勉強した内容がしっかりと身につけているか確認する。	・写真や資料から世界各地の人々の生活の特徴が読み取れること。 ・世界各地は5つの気候帯に分かれているのがわかること。 ・雨温図の読み取りができること。また、同じ気候帯でも位置によって気候区分が違ってくるのがわかること。 ・宗教と人々の生活が密接に結びついている地域があるのがわかること。	※重点学習項目 ・数値を基に雨温図を作成できるようにする。 ・5つの気候帯が世界のどの地域に広がっているか。

	4	<p>第2編2章 世界の諸地域 1節 アジア州(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の特徴(1) ・アジア NIES の成長(1) ・巨大な人口を支える中国(1) ・都市化が進む東南アジア(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の特徴を理解する。理解を深めるために、「アジアはなぜ急速に経済が発展したか」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の気候、人口、主要な地形がわかること。 ・東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアの経済がそれぞれどのように成長してきたかわかること。 ・その地域の輸出品や輸入品についてのグラフを読み取ることができること。 	<p>※重点学習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ページの重要語句(太文字)の理解。 ・各地域の主要な輸出品をグラフから読み取る。
7 月	2	<ul style="list-style-type: none"> ・急速に成長する南アジア(1) ・資源が豊富な西アジア・中央アジア(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の特徴を理解する。理解を深めるために、「アジアはなぜ急速に経済が発展したか」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジア、西アジア、中央アジアの経済がそれぞれどのように成長してきたかわかること。 ・その地域の輸出品や輸入品についてのグラフを読み取ることができること。 	<p>※重点学習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ページの重要語句(太文字)の理解。 ・各地域の主要な輸出品をグラフから読み取る。
	4	<p>第2編2章 世界の諸地域 2節 ヨーロッパ州(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州をながめて(1) ・ヨーロッパ統合の動き(1) ・持続可能な社会に向けて(1) ・EUがかかえる課題(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州の特徴を理解する。理解を深めるために、「ヨーロッパはなぜ統合をめぐる様々な動きが見られるのか」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの統合において、利点と課題についてわかること。(特にEUやユーロなどの統合に関係する語句を理解できること) 	<p>※重点学習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ページの重要語句(太文字)の理解。 ・各地域の主要な輸出品をグラフから読み取る。

(様式3)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけて もらいたい学習内容・力	家庭学習の要 点
9月	7	第2編2章 世界の諸地域 3節 アフリカ州 ・アフリカ州を眺めて(1) ・アフリカの産業と新たな開発(1) ・発展に向けた課題(1) 4節 北アメリカ州 ・北アメリカ州を眺めて(1) ・巨大な生産力と移民(1) ・巨大な工業生産力(1) ・新しい産業と生活文化(1)	・アフリカ州の地域的特色を理解する。理解を深めるために、「アフリカ州ではなぜ国際的な支援が必要とされているのでしょうか」について考える。 ・北アメリカ州の地域的特色を理解する。理解を深めるために、「北アメリカ州では、なぜ、アメリカ合衆国への移民が多くみられるのでしょうか」について考える。	・アフリカの地域的特色や産業の特徴的な事柄についてわかること。 ・アフリカの発展に向けた課題を理解し、発展に向けた方法を考えられること。 ・北アメリカの地域的特色や産業の特徴的な事柄についてわかること。 ・アメリカの工業の発展、変化の背景、アメリカの文化が世界中に広がっている理由を考えられること。	※重点学習項目 ・各ページの重要語句(太文字)の理解。 ・各地域の主要な輸出品をグラフから読み取る。
10月	8	5節 南アメリカ州 ・南アメリカ州を眺めて(1) ・自然環境と共生する生活(1) ・開発の進行と影響(1) 6節 オーストラリア州 ・オセアニア州を眺めて(1) ・貿易を通じた他地域とのつながり(1) ・人々による他地域とのつながり(1) 歴史 歴史学習オリエンテーション(1) 第1章 歴史へのとびら(1) ・定期テスト(2)	・南アメリカ州の地域的特色を理解する。理解を深めるために、「南アメリカ州では、なぜ森林が減少しているのでしょうか」について考える。 ・オセアニア州の地域的特色を理解する。理解を深めるために、「オセアニア州では、なぜアジアとの結びつきが強くなったのでしょうか」について考える。 ・歴史を学習する意義を考え、自分なりの考えを導きだす。年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解する。	・南アメリカの地域的特色や産業の特徴的な事柄についてわかること。 ・今後の南アメリカの開発について「持続可能な開発」の観点から考えられること。 ・オセアニアの地域的特色や産業の特徴的な事柄についてわかること。 ・多文化社会を築くために必要なことについて考えられること。 ・歴史を学習する意義について考えられること。 ・年代の表し方や時代区分意味や意義を理解すること。	※重点学習項目 ・各ページの重要語句(太文字)の理解。 ・各地域の主要な輸出品をグラフから読み取る。
11月	8	第2章 古代までの日本 1節 世界の古代文明までの日本 ・人類の出現と進化(1) ・古代文明のおこりと発展(1) ・中国文明の発展(1) ・ギリシャ・ローマの文明(1) ・宗教のおこりと三大宗教(1) ・定期テスト(3) 2節 日本列島の誕生と大陸の交流 ・旧石器時代と縄文時代の暮らし(1) ・弥生時代の暮らしと邪馬台国(1) ・大王の時代(1)	・地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。 ・世界の古代文明や宗教の起こりを基に、世界各地で文明が築かれたことを理解する。 ・世界の古代文明や宗教のおこりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し表現する。 ・東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されたことを理解する。 ・日本列島における国家形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。	・調べる手段やまとめる方法を理解し、それらを用いることができること。 ・世界各地で文明が築かれたことを理解すること。 ・古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し表現すること。 ・我が国の国家形成の様子、変化を理解すること。	※重点学習項目 ・各ページの重要語句(太文字)の理解。 ・歴史的に重要な事象を自分の言葉で表現する。

12月	8	<p>3 節 古代国家の歩みと東アジア世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子の政治改革(1) ・東アジアの緊張と律令国家への歩み(1) ・律令国家の成立と平城京(1) ・奈良時代の人々の暮らし(1) ・天平文化(1) ・平安京と律令国家の変化(1) ・摂関政治の時代(1) ・国風文化(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成の過程、摂関政治、古代の文化と東アジアとの関わりについて理解している。 ・律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家形成の過程など、古代日本の政治の流れを理解すること。 ・古代の社会の変化の様子を他面的・多角的に考察し、表現する。 	<p>※重点学習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ページの重要語句(太文字)の理解。 ・歴史的に重要な事象を自分の言葉で表現する。
-----	---	---	---	---	---

(様式4)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけても らいたい学習内容・力	家庭学習の 要点
1 月	8	第3章 中世の日本 1節 武士の政権と成立 ・武士の成長(1) ・院政から武士の政権へ(1) ・鎌倉幕府の成立と執権政治(1) ・武士と民衆の生活(1) ・鎌倉時代の文化と宗教(1) 2節 ユーラシアの動きと武 士の政治の展開 ・モンゴル帝国とユーラシア 世界(1) ・モンゴルの襲来(1) ・南北朝の動乱と室町幕府(1)	・武士政権の成立、農業 や商工業の発達につ いて理解している。 ・武家政治の成立につい て、中世の社会の变化 の様を多面的・多角的 に考察する。	・武士政権の成立、中世社会 の農業や工業の様子を理 解すること。 ・中世の社会の特徴を多面 的・多角的に考察し、表現 すること。	※重点学習項目 ・各ページの重 要語句(太文 字)の理解。 ・歴史的に重要 な事象を自分 の言葉で表現 する。
2 月	9	・東アジアとの交流(1) ・産業の発達と民衆の生活(1) ・応仁の乱と戦国大名(1) ・室町文化とその広がり(1) ・学期末テスト 第4章 1節 ヨーロッパ人との出 会いと全国統一 ・ヨーロッパ人との出会い(1) ・織田信長・豊臣秀吉による統 一事業(2) ・兵農分離と秀吉の対外政策 (1)	・元寇や南北朝の争乱、 室町幕府、日明貿易、 琉球の様子について 理解している。 ・ユーラシアの交流、武 家政治の展開と東ア ジアの動き、民衆の成 長と新たな文化の形 成について、それらで 見られる課題を主体 的に追究し、解決す る。	・元寇、南北朝の争乱、室町 幕府と室町時代の商工業 や農業の発達の様子を理 解すること。 ・ユーラシアの交流、武家政 治の展開と東アジアの動 き、民衆の成長と新たな 文化の形成について、多 面的・多角的に考察し、表 現していること。	※重点学習項目 ・各ページの重 要語句(太文 字)の理解。 ・歴史的に重要 な事象を自分 の言葉で表現 する。
3 月	5	・桃山文化(1) 第4章 2節江戸幕府の成立 と鎖国(4) ・江戸幕府の成立と支配の仕組 み(1) ・さまざまな身分と暮らし(1) ・貿易の振興から鎖国・対外政 策(1) ・鎖国下の外交政策と琉球、ア イヌ民族との関係(1)	・観察や野外調査、文献 調査を行う際の視点 や方法など、地理的な まとめ方の基礎を理 解する。 ・地形図や主題図の読 図、目的や用途に適し た地図の作成などの 地理的技能を身に付 ける。	・観察や野外調査、文献調査 などを行ううえでの方法、 まとめ方を理解すること。 ・地形図や主題図の読図な どの地理的技能を身に付 けること。	・観察や野外調 査、文献調査 の手法をまと める。 ・地形図や主題 図の読図の演 習を繰り返 す。

鎌ヶ谷市立第四中学校 第1学年 2学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

※各単元の学習目標を記載

地理【第2編第2章：世界の諸地域（アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州）】

- ・それぞれの州に暮らす人々の生活を資料から読み取り、特色を理解する。
- ・それぞれの州の現状を読み取り、課題を考え、解決策を見つける。

歴史【第1章：歴史へのとびら】

- ・年代の表し方や時代区分の意味や意義について理解する。
- ・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表にまとめたりするなどの技能を身に付ける。

【第2章：古代までの日本】

- ・古代までの日本における人々の社会生活、政治の動き、世界の様子などを理解する。
- ・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

【評価の観点及び内容】

◆【知識・技能】

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較し、違いや特徴を読み取ることができるか。

◆【思考・判断・表現】

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

◆【主体的に学習に取り組む態度】

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだことを活用して内容をまとめることができるか。

【評価の方法】

◆【知識・技能】

- ・テストなどによる知識を問う問題
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題

◆【思考・判断・表現】

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめられる

◆【主体的に学習に取り組む態度】

- ・定期テストによる総合的な理解度（ワークの取り組み状況との関連性）
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる
- ・定期テストで時事問題を出题します

【学びを高める学習方法アドバイス】

（1）学習方法

- ・**授業の持ち物**…（地理）地理の教科書、資料集、地図帳、ワーク、のり、ノート（A4サイズがおすすめです）
（歴史）歴史の教科書、資料集、地図帳、ワーク、のり、ノート（A4サイズがおすすめです）
- ・**プリントの取り方**…基本的に、穴埋めのところは書き込みましょう。自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題も、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・**家庭学習**…予習：教科書の該当箇所を読む。（気になったことや疑問に思うことを事前に挙げておくと良いでしょう。）
復習：授業で進んだ範囲のワークを解くことは必須。より理解を深めたい人は、自分なりに授業で学んだことや覚えたことをノート1ページにまとめてみたり、他の人に説明したりすることで理解が深まります。

（2）授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。（話は目と耳と心で聞く）話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・黒板の内容を写すだけでは意味がありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったこともノートにメモをとり、オリジナルのノートを作成しましょう。

【教科担任からのメッセージ】

教科書をただ読むだけではなく、どこがわからないか疑問点を持つことや、問題集をただ解くだけではなく、理解しているところとしていないところを意識して学習に取り組むことが一番大切です。学習効率を上げるためにも、短時間でたくさんのことを覚えられるように、一つひとつの授業や家庭学習に対し、意識を持って取り組んでみてください。2学期も頑張ってください。

鎌ヶ谷市立第四中学校 第1学年 3学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【第3章：中世の日本】

- ・中世の日本における人々の社会生活、産業や政治の動き、他国とのかかわりについて理解する。
- ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

【第4章：近世の日本】

- ・近世の日本における人々の社会生活、政治の動き、世界の様子などを理解する。
- ・近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

【評価の観点及び内容】

◆【知識・技能】

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に書かれている内容を読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較して、違いや特徴を読み取ることができるか。

◆【思考・判断・表現】

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

◆【主体的に学習に取り組む態度】

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだことを活用して内容をまとめることができるか。

【評価の方法】

◆【知識・技能】

- ・テストなどによる知識を問う問題
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題

◆【思考・判断・表現】

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめる

◆【主体的に学習に取り組む態度】

- ・定期テストによる総合的な理解度（ワークの取り組み状況との関連性）
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・定期テストで時事問題を出题します。

【学びを高める学習方法アドバイス】

(1) 学習方法

- ・**授業の持ち物**…歴史の教科書、資料集、ワーク、地図帳、のり、ノート（A4サイズがおすすめです）
- ・**プリントの取り方**…基本的に、黒板に書いたことは全てプリントに書き込みましょう。自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題も、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・**家庭学習**…予習：教科書の該当箇所を読む。（気になったことや疑問に思うことを事前に挙げておくとういでしょう。）
復習：授業で進んだ範囲のワークを解くことは必須。より理解を深めたい人は、自分なりに授業で学んだことや覚えたことをノート1ページにまとめてみたり、他の人に説明したりすることで理解が深まります。

(2) 授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。（話は目と耳と心で聞く）話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・黒板の内容を写すだけでは意味がありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったこともノートにメモをとり、オリジナルのノートを作成しましょう。

【教科担任からのメッセージ】

教科書をただ読むだけではなく、どこがわからないか疑問点を持つことや、問題集をただ解くだけではなく、理解しているところとしていないところを意識して学習に取り組むことが一番大切です。学習効率を上げるためにも、短時間でたくさん覚えられるように、一つひとつの授業や家庭学習に対し、意識を持って取り組んでみてください。3学期も頑張ってください。

(様式1)

鎌ヶ谷市立第四中学校 第2学年 1学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【地理第3編第2章：日本の地域的特色と地域区分】

世界的視野から見た日本の地域的特色や日本全体から見た国内諸地域の特徴を様々な観点から捉え、日本の国土の特徴を理解する。また、その特色が生まれる要因を理解するとともに、その特色に対しての対応も考える等して公民的資質を養う。

【地理第3編第3章：日本の諸地域（九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方）】

日本を7つの諸地域に分け、地域ごとにテーマを設定しそのテーマを探求する。そのなかで、各所地域の特徴について関心を持ち、日本の諸地域について理解を深める。

【評価の観点及び内容】

【知識・技能】

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較して、違いや特徴を読み取ることができるか。

【思考・判断・表現】

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだこと活用して内容をまとめることができる。

【評価の方法】

【知識・技能】

- ・テストなどによる知識を問う問題
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題。

【思考・判断・表現】

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題。
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめられる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・プリントに記述すべき内容が記述されている。
- ・自分の意見や考えを書くことができ、またその意欲がある。
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・学んだ内容を用いて、レポートや新聞などを作成することができる。
- ・各単元の学習内容、事象を理解できる。

【学びを高める学習方法アドバイス】

(1) 学習方法

- ・授業の持ち物…地理の教科書、ノート、資料集、地図帳、ワーク、Chromebook
- ・プリントの取り方…自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題は、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・家庭学習…(予習)教科書を読む。(復習)学習した範囲のワークをワークノートに解く。

(2) 授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。(話は目と耳と心で聞く)話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・プリントは黒板の内容を写すだけのものではありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったこともノートにメモをとりましょう。

【教科担任からのメッセージ】

1学期は、日本地理について学習を行っていきます。自らが経験したことや、知っていることなどを、授業で扱う内容と関連させて学習していきましょう。社会の授業は、「暗記をしなければいけない」というイメージがありますが、暗記だけでなく、学んだ知識を使って考えることが重要です。授業では、「覚えるところ」・「考えるところ」、どちらもメリハリをつけて、取り組んでください。また、授業中は話を聞くことも大切ですが、自分の考えや意見を発信することも大切です。積極的かつ能動的に学習を行っていきましょう！

(様式2)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけてもらいたい学習内容・力	家庭学習の要点
4月	5	第2章 1節日本の地域的特色と地域区分(5) ・地形から見た日本の特色(2) ・気候から見た日本の特色(1) ・自然災害と防災・減殺の取り組み(1) ・人口から見た日本の特色(1)	・世界の地形と日本の地形を比較して、どのような点が違うのかを理解する。 ・世界の気候と日本の気候を比較して、どのような点が違うのかを理解する。 ・自分たちが住んでいる地域で、どのような防災ができるのかを理解する。	・資料やグラフから、日本と他国の地形の違いが読み取れるようになること。 ・資料やグラフから、日本と他国の気候の違いが読み取れるようになること。 ・資料から日本の人口の変容を読み取り、日本が抱える課題を読み取れるようになること。	(予習)教科書を読む。 (復習)授業で学習した内容に関係するワークを解く。 (以下1～3学期の全ての学習においても共通)
5月	8	1節日本の地域的特色と地域区分(4) ・資源・エネルギーから見た日本の特色(1) ・産業から見た日本の特色(1) ・交通・通信から見た日本の特色(1) ・日本を地域区分しよう(1) 第3章 日本の諸地域 1節九州地方 自然とともに生きる人々の暮らし(4) ・九州地方の自然環境・あらまし(1) ・九州地方での生活の工夫(1) ・九州地方の諸産業(1) ・持続可能な社会をつくるために(1)	・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信について、日本の特色を理解し、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目させて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・九州地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解し、九州地方の学習テーマ「自然とともに生きる人々の暮らし」について探究する。	・日本のエネルギー事情について理解し、資源とエネルギーの関係について自分の言葉でまとめられるようになること。 ・日本のそれぞれの産業の発達している地域や様子を理解できるようになること。 ・日本各地の工業地帯・地域の特色をグラフから読み取り、そのグラフが示す工業地帯を答えられるようになること。 ・九州地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解すること。 ・九州地方の学習テーマ「自然とともに生きる人々の暮らし」を探究し、自分の言葉で学習テーマについてまとめられるようになること。	
6月	10	2節中国・四国地方 交通・通信とともに変化する人々の暮らし(4) ・中国・四国地方の自然環境とあらまし(1) ・交通網の整備と人や物の移動の変化(1) ・中国・四国地方の諸産業(1) ・町おこし・村おこし(1) 3節近畿地方 都市・農村の変化と人々の暮らし(4) ・近畿地方の自然環境とあらまし(1) ・大都市圏の形成と都市の産業(1) ・ニュータウンの建設と都市の開発(1) ・変化する農村の暮らし(1) 定期テスト(2) ※テスト1時間。振り返り1時間。	・中国・四国地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解し、中国・四国地方の学習テーマ「交通・通信とともに変化する人々の暮らし」について探究する。 ・近畿地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解し、近畿地方の学習テーマ「都市・農村の変化と人々の暮らし」について探究する。	・中国・四国地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解すること。 ・中国・四国地方の学習テーマ「交通・通信とともに変化する人々の暮らし」について探究し、自分の言葉で学習テーマについてまとめられるようになること。 ・近畿地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解すること。 ・近畿地方の学習テーマ「都市・農村の変化と人々の暮らし」について探究し、自分の言葉で学習テーマについてまとめられるようになること。	
			※テスト範囲(予定) 地理の教科書P.158～P.208		

7 月	8	<p>4節中部地方 活発な産業を支える人々の暮らし(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の自然環境とあらし(1) ・東海の産業(1) ・中央高地の産業(1) ・北陸の産業(1) <p>5節関東地方 さまざまな地域と結び付く人々の暮らし(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方の自然環境とあらし(1) ・世界と結び付く東京(1) ・東京を生活圏とする人々の暮らしと交通(1) ・関東地方の多様な産業(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解し、近畿地方の学習テーマ「活発な産業を支える人々の暮らし」について探究する。 ・関東地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解し、関東地方の学習テーマ「さまざまな地域と結び付く人々の暮らし」について探究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解すること ・関東地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解すること。 ・関東地方の学習テーマ「さまざまな地域と結び付く人々の暮らし」について探究し、自分の言葉で学習テーマについてまとめられるようになること。 	
--------	---	--	---	---	--

(様式1)

鎌ヶ谷市立第四中学校 第2学年 2学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【地理第3編第3章：日本の諸地域（近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方）】

日本を7つの諸地域に分け、地域ごとにテーマを設定しそのテーマを探求する。そのなかで、各所地域の特色について関心を持ち、日本の諸地域について理解を深める。

【地理第3編第4章：地域の在り方】

身近な地域の課題を調査し、課題の要因を踏まえた解決策を考え、その地域に沿った将来像を探求する。

【歴史第4章：近世の日本】

ヨーロッパの文化や技術が日本に伝わり、日本社会に影響を及ぼしたことを理解するとともに、織豊政権時代との比較をしながら、特徴を捉えられるようにする。江戸幕府の仕組みを理解する。鎖国下の日本が諸外国にどのような対応をとったのかを資料から読み取り、その特徴をまとめられるようにする。江戸の三大改革を通して、社会がどのように変化したかを理解し、自分の言葉でまとめられるようにする。

【評価の観点及び内容】

【知識・技能】

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較して、違いや特徴を読み取ることができるか。

【思考・判断・表現】

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだことを活用して内容をまとめることができるか。

【評価の方法】

【知識・技能】

- ・テストなどによる知識を問う問題。
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題。
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題。

【思考・判断・表現】

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題。
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題。
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・プリントに記述すべき内容が記述されている。
- ・自分の意見や考えを書くことができ、またその意欲がある。
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・学んだ内容を用いて、レポートや新聞などを作成することができる。
- ・各単元の学習内容、事象を理解できる。

【学びを高める学習方法アドバイス】

(1) 学習方法

- ・**授業の持ち物**…(地理) 地理の教科書, ノート, 資料集, 地図帳, ワーク, Chromebook
(歴史) 歴史の教科書, 資料集, ワーク, Chromebook
- ・**プリントの取り方**…基本的に、穴埋めのところは書き込みましょう。自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題も、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・**家庭学習**…予習：教科書の該当箇所を読む。(気になったことや疑問に思うことを事前に挙げておくと良いでしょう。) 復習：授業で進んだ範囲のワークを解くことは必須。より理解を深めたい人は、自分なりに授業で学んだことや覚えたことをノート1ページにまとめてみたり、他の人に説明したりすることで理解が深まります。

(2) 授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。(話は目で聞く) 話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・授業プリントやノートは黒板の内容を写すだけのものではありません。先生の説明や友達の発表に興味・関心を持ったことも授業プリントやノートにメモをとりましょう。

【教科担任からのメッセージ】

2学期は、日本地理、近世の日本の歴史について学習を行っていきます。自らが経験したことや、知っていることなどを、授業で扱う内容と関連させて学習していきましょう。社会の授業は、「暗記をしなければいけない」というイメージがありますが、暗記だけでなく、学んだ知識を使って考えることが重要です。授業では、「覚えるところ」・「考えるところ」、どちらともメリハリをつけて、取り組んでください。また、授業中は話を聞くことも大切ですが、自分の考えや意見を発信することも大切です。積極的かつ能動的に学習を行っていきましょう！

(様式3)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけてもらいたい学習内容・力	家庭学習の要点
9月	6	6節東北地方 伝統的な生活・文化 を受けつぐ人々の暮らし(4) <ul style="list-style-type: none"> 東北地方の自然環境とあらし(1) 祭りや年中行事の伝統とその変化(1) 伝統工芸品の生産・販売とその変化(1) 過去の継承と未来に向けた社会づくり(1) 定期テスト(2) ※テスト1時間。振り返り1時間。	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解し、関東地方の学習テーマ「伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし」について探究する。 ※テスト範囲(予定) 地理の教科書 P.210～P.243	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解すること。 東北地方の学習テーマ「伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし」について探究し、自分の言葉で学習テーマについてまとめられるようになること。 	
10月	9	7節北海道地方 雄大な自然とともに 生きる人々の暮らし(4) <ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の自然環境とあらし(1) 自然の制約に適応する人々の工夫(1) 自然の制約や社会の変化を乗り越える(1) 自然の特色を生かした産業(1) 第4章 2節江戸幕府 の成立と鎖国(5) <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立と支配の仕組み(1) さまざまな身分と暮らし(1) 貿易の振興から鎖国・対外政策(1) 鎖国下の対外関係(1) 琉球王国やアイヌ民族との関係(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解し、北海道地方の学習テーマ「伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし」について探究する。 鎖国下の日本がおこなった対外政策を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の概要、自然環境、諸産業などを資料から読み取り、理解すること。 北海道地方の学習テーマ「伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし」について探究し、自分の言葉で学習テーマについてまとめられるようになること。 鎖国下の日本において、江戸幕府が諸外国に対してどのような対応をとったかを、自分の言葉でまとめられるようになること。 	

11月	9	<p>第4章 3節産業の発達と幕府政治の動き(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や諸産業の発展(1) ・都市の繁栄と交通路の整備と(1) ・幕府政治の安定と元禄文化(1) ・享保の改革と社会の変化(1) ・田沼意次の政治と寛政の改革(1) ・新しい学問と化政文化(1) ・外国船の出現と天保の改革(1) <p>定期テスト(2) ※テスト1時間。振り返り1時間。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の産業の発達やそれに伴う交通路の整備について理解する。(商業の発達) ・交通路の整備で発展した日本について、五街道だけでなく、鎌ヶ谷市と関係がある脇街道の存在についても触れる。鎌ヶ谷地域の学習を通して、日本史の中で、鎌ヶ谷地域がどのような役割を果たしたか理解する。 ・江戸の三大改革を通して、江戸時代の社会がどのように変化したかを理解する。 <p>※テスト範囲(予定) 地理の教科書P.246～P.268 歴史の教科書P.114～P.129</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸の三大改革の特徴をそれぞれ理解し、改革が進むごとに日本の社会がどのように変化していったかを、自分の言葉でまとめられるようになること。 	
12月	9	<p>第5章 1節 欧米における近代化の進展(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリス・アメリカの革命(1) ・フランス革命(1) ・ヨーロッパにおける国民意識の高まり(1) ・ロシアの拡大とアメリカの発展(1) ・産業革命と資本主義(1) <p>2節 欧米の進出と日本の開国(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米のアジア侵略(1) ・開国と不平等条約(1) ・開国後の政治と経済(1) ・江戸幕府の滅亡(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパにおける近代化の動きを理解する。(特にイギリス、フランス、アメリカにおける革命) ・産業革命により生産力が向上したことにより、貿易の拡大や植民地政策が加速したことを理解する。 ・鎖国を続けていた日本に、近代化を進めた欧米諸国が接近したことが江戸幕府の滅亡につながったことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国が進めた改革により、これまでの社会からどのような点が変わったのかを、自分の言葉でまとめられるようになること。 ・これまで鎖国政策を続けていた日本の開国から江戸幕府が滅亡するまでの流れを、自分の言葉でまとめられるようになること。 	

(様式1)

鎌ヶ谷市立第四中学校 第2学年 3学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【歴史第4章：近世の日本】

ヨーロッパの文化や技術が日本に伝わり、日本社会に影響を及ぼしたことを理解するとともに、織豊政権時代との比較をしながら、特徴を捉えられるようにする。江戸幕府の仕組みを理解する。鎖国下の日本が諸外国にどのような対応をとったのかを資料から読み取り、その特徴をまとめられるようにする。江戸の三大改革を通して、社会がどのように変化したかを理解し、自分の言葉でまとめられるようにする。

【第5章：開国と近代日本の歩み】

開国から明治維新を経て、近代国家を形成していく過程を、欧米諸国の歴史を背景に理解し、その知識を身につける。また、開国から江戸幕府滅亡、明治維新後の日本国内の動きと対外政策について理解したうえで、それらをもとに、日本国内・国外の影響について考え、まとめられるようにする。

【評価の観点及び内容】

◆知識・技能

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較して、違いや特徴を読み取ることができるか。

◆思考・判断・表現

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだことを活用して内容をまとめることができるか。

【評価の方法】

◆知識・技能

- ・テストなどによる知識を問う問題
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題

◆思考・判断・表現

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめる。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・プリントに記述すべき内容が記述されている。
- ・自分の意見や考えを書くことができ、またその意欲がある。
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・学んだ内容を用いて、レポートや新聞などを作成することができる。
- ・各単元の学習内容、事象を理解できる。

【学びを高める学習方法アドバイス】

(1) 学習方法

- ・授業の持ち物…歴史の教科書、資料集、ワーク、Chromebook
- ・プリントの取り方…基本的に、穴埋めのところは書き込みましょう。自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題も、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・家庭学習…予習：教科書の該当箇所を読む。(気になったことや疑問に思うことを事前に挙げておくと良いでしょう。)復習：授業で進んだ範囲のワークを解くことは必須。より理解を深めたい人は、自分なりに授業で学んだことや覚えたことをノート1ページにまとめてみたり、他の人に説明したりすることで理解が深まります。

(2) 授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。(話は目で聞く)話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・プリントは黒板の内容を写すだけのものではありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったこともノートにメモをとしましょう。

【教科担任からのメッセージ】

3学期は、江戸時代の幕政から幕末、明治維新を経て日本が、他国とのかかわりを経て近代化していく時代について学習していきます。明治時代以降は、現代と似通うところも多く、理解しやすい、考えやすい時代だと思います。ただし、これまでの学習してきた時代以上に、深く学習していくので、理解した後、定着を図るためにも復習は必ず必要です。2年生のうちに、1・2年生で学習してきた内容を総復習できるように頑張っていきましょう。また、歴史を学習する際には、その時代で生活している人の気持ちになることが大切です。そうすると、当時の時代観と歴史的出来事を結び付けながら、歴史を捉えられるようになっていくと思います。

(様式4)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけてもらいたい学習内容・力	家庭学習の要点
1月	8	3節 明治維新(8) ・新政府の成立(1) ・明治維新の三大改革(1) ・富国強兵と文明開化(1) ・近代的な国際関係(1) ・国境と領土の確定と領土をめぐる問題の背景(1) ・自由民権運動の高まり(1) ・立憲制国家の成立(1)	・明治維新の三大改革がどのようなもので、その改革により日本の社会がどう変化したかを理解する。 ・江戸時代の末期に、諸外国と結んだ不平等条約を改正するために様々な政策を行ったことを理解する。 ・諸外国の影響で日本に民主主義の考えが伝わり、国民の参政権の確立を目指す動きが高まったことを理解する。	・先に近代化を進めた欧米諸国に対抗するために、様々な改革を行い、近代的な国家を目指した日本社会の動きを自分の言葉でまとめられるようになること。 ・自由民権運動から憲法制定に至るまでの時期について、民権側と政府側の立場からのそれぞれの主張を理解すること。 ・政党の結成や憲法制定の過程、選挙制度について比較すること。	
2月	8	4節 日清・日露戦争と近代産業(2) ・欧米列強の侵略と条約改正(1) ・日清戦争(1) 定期テスト(2) ※テスト1時間。振り返り1時間。 4節 日清・日露戦争と近代産業(4) ・日露戦争(1) ・韓国と中国(1) ・産業革命の進展(1) ・近代文化の形成(1)	・日本を取り巻く、当時の国際関係について、資料から読み取った結果をまとめることができる。	・欧米諸国が世界進出していく動き、それらの帝国主義が生まれた要因を、自分の言葉でまとめられるようになること。	
3月	7	入試問題演習(7)	・過去問題を活用し、実践的な問題を解く。	・次年度の入試本番を意識し、問題になれる。	

(様式1)

鎌ヶ谷市立第四中学校 第3学年 1学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【歴史第5章：開国と近代日本の歩み】

開国により変化する日本を様々な視点から捉え、近代日本の特色を理解する。明治期の変化について流れを理解する。

【歴史第6章：二度の世界大戦と日本】

二度の世界大戦の内容と、大戦が国際社会に与えた影響を理解する。第一次世界大戦から終戦までの流れについて理解する。

【歴史第7章：現代の日本と私たち】

戦後の日本の復興の流れについて理解する。冷戦による国際社会の影響について理解する。

【公民第1章：現代の日本と私たち】

私たちが生きる現代社会の抱えている課題を理解する。現代社会の課題の解決や持続可能な社会ためにどのような見方考え方が必要なのか追求する。

【評価の観点及び内容】

◆知識・技能

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較して、違いや特徴を読み取ることができるか。

◆思考・判断・表現

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだことを活用して内容をまとめることができるか。

【評価の方法】

◆知識・技能

- ・テストなどによる知識を問う問題。
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題。
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題。

◆思考・判断・表現

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題。
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題。
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめられる。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・プリントに記述すべき内容が記述されている。
- ・自分の意見や考えを書くことができ、またその意欲がある。
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・学んだ内容を用いて、レポートや新聞などを作成することができる。
- ・各単元の学習内容、事象を理解できる。

【学びを高める学習方法アドバイス】

(1) 学習方法

- ・授業の持ち物…歴史・公民の教科書、公民資料集、歴史ワーク、ファイル
- ・プリントの取り方…基本的に、黒板に書いたことは全てプリントに書き込みましょう。自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題も、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・家庭学習…課題で出された、配付されるプリントにしっかりと取り組む。(復習) 学習した範囲のワークをワークノートに解く。

(2) 授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・授業プリントやノートは黒板の内容を写すだけのものではありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったことも授業プリントやノートにメモをとりましょう。

【教科担任からのメッセージ】

1学期は、明治維新から公民の現代社会の特色についてまで学んでいきます。明治時代以降は、日本が大きく変化していった時代になります。なぜという視点に立って歴史を学習していきましょう。公民は、現代社会について考えていきます。現在の世の中の動きと関連付けて学んでいきましょう。また、1・2年生で学習してきた内容を総復習できるように頑張ってください。

(様式2)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけてもらいたい 学習内容・力	家庭 学習の 要点
4月	4	第5章 2節 明治維新(7) ・新政府の成立(1) ・明治維新の三大改革(1) ・富国強兵と文明開化(1) ・近代的な国際関係(1)	・日本の近代化がどのように進んだか、三大改革や憲法成立などのできごとを通して具体的に理解する。	・三大改革の内容について、記述できるようになること。 ・新政府の成立から帝国議会の開設までの流れを理解できるようになること。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やノート の振り返り ・ワーク や問題集 の問題を 解く
5月	13	・国境と領土の確定(1) ・自由民権運動の高まり(1) ・立憲制国家の成立と単元のまとめ(1) 第5章 3節 日清・日露戦争と近代産業(6) ・欧米列強の侵略と条約改正(1) ・日清戦争(1) ・日露戦争(1) ・韓国と中国(1) ・産業革命の進展(1) ・近代文化の形成と単元のまとめ(1) 第6章 1節 第一次世界大戦と日本(7) ・第一次世界大戦(1) ・ロシア革命(1) ・国際協調の高まり(1) ・アジアの民族運動(1)	・日本の近代化がどのように進んだか、三大改革や憲法成立などのできごとを通して具体的に理解する。 ・欧米列強と対等な関係を目指して、日本がどのような政策を行ったのかを理解する。 ・明治期の日本の文化の特色について理解する。 ・ヨーロッパ全土を巻き込んだ第一次世界大戦の様子や国際社会の対応を理解する。	・新政府の成立から帝国議会の開設までの流れを理解できるようになること。 ・他国との条約改正がどのように進められたか、記述できるようになること。 ・日清、日露戦争のきっかけと、その後結ばれた条約の内容について記述できるようになること。 ・主要な作品と作者の名前を理解できるようになること。 ・第一次世界大戦の概要について、記述できるようになること。 ・国際連盟の存在と、アジア諸国の民族運動について理解できるようになること。	
6月	12	・大正デモクラシーと政党内閣の成立(1) ・広がる社会運動と普通選挙の実現(1) ・新しい文化と生活と単元のまとめ(1) 第6章 2節 第一次世界大戦と日本(5) ・世界恐慌とブロック経済(1) ・欧米の情勢とファシズム(1) ・昭和恐慌と政党内閣の危機(1) ・満州事変と軍部の台頭(1) ・日中戦争と戦時体制と単元のまとめ(1) 第6章 3節 第二次世界大戦と日本(4) ・第二次世界大戦の始まり(1) ・太平洋戦争の開始(1) ・戦時下の人々(1) ・戦争の終結と単元のまとめ(1)	・世界恐慌の影響により、各国政府がとった政策と行動について理解する。 ・第二次世界大戦(ヨーロッパ戦線・太平洋戦線)の様子や国際社会の対応を理解する。	・大正期の、日本国内の政治や社会情勢、また当時の民主主義の考え方について理解すること。 ・世界恐慌に対するアメリカ、イギリスを中心とした諸外国の対応について、記述できるようになること。 ・満州事変から日中戦争の開戦までの流れについて理解できるようになること。 ・ヨーロッパ世界での大戦の概要について、記述できるようになること。 ・太平洋を舞台とした大戦の概要について、記述できるようになること。 ・この第二次世界大戦を通して戦争の惨禍について、自分で考えられるようにすること。	
7月	11	第7章 1節 戦後日本の発展と国際社会(7) ・占領下の日本(1) ・民主化と日本国憲法(1) ・冷戦の開始と植民地の解放(1) ・独立の回復と55年体制(1) ・緊張緩和と日本外交(1) ・日本の高度経済成長(1) ・マスメディアと現代の文化(1) 第7章 2節 戦後日本の発展と国際社会(2) ・冷戦後の国際社会(1) ・変化の中の日本、持続可能な社会に向けて(1) 【公民】 第1章 1節 現代社会の特色と私たち(2) ・持続可能な社会に向けて、グローバル化(1) ・少子高齢化、情報化(1)	・戦後日本の復興と世界的な思想の対立(資本主義、社会主義)が世界に与えた影響について理解する。 ・冷戦終結後、世界各地でどのような協力体制が構築されたのかを理解する。 ・EUやAPECなどの地域協力の動きについて、理解できるようになること。 ・日本のPKO協力や現代社会における課題について、自分の考えをまとめることができるようになること。 ・現代社会の特色と課題をグローバル化、情報化、少子高齢化の3つの側面から理解する。	・高度経済成長により世界第二位の経済大国まで復興した日本社会の動きについて理解できるようになること。 ・冷戦とはどのような対立であったかアメリカ、ソ連の両国の動きを中心に、概要について記述できるようになること。 ・現代社会の抱える課題について、グローバル化、情報化、少子高齢化の観点から、自分の言葉でまとめることができるようになること。	

鎌ヶ谷市立第四中学校 第3学年 2学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【公民 第1章：現代社会と私たち】

私たちが生きる現代社会の抱えている課題を理解する。現代社会の課題の解決や持続可能な社会ためにどのような見方考え方が必要なのか追求する。

【公民 第2章：個人の尊重と日本国憲法】

憲法の意義、成り立ちを理解する。国際社会の中で人権を保障する姿勢や人権上の諸課題について関心を持ち追及する。

【公民 第3章：現代の民主政治と社会】

政治の仕組みを理解したうえで、民主政治では政治に参加することが大切であることを理解する。人々の声を政治に生かすためにはどのような方法があるのかを探求する。

【公民 第4章：私たちの暮らしと経済】

生産活動での労働者権利の保障や金融の働きや国民の福祉にとって財政が重要な役割を担っていることを理解する。現代社会で、自身が経済にどのように関わっていったらよいのかを探求する。

【評価の観点及び内容】

◆知識・技能

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較して、違いや特徴を読み取ることができるか。

◆思考・判断・表現

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだことを活用して内容をまとめることができるか。

【評価の方法】

◆知識・技能

- ・テストなどによる知識を問う問題。
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題。
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題。

◆思考・判断・表現

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題。
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題。
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめられる。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・プリントに記述すべき内容が記述されている。
- ・自分の意見や考えを書くことができ、またその意欲がある。
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・学んだ内容を用いて、レポートや新聞などを作成することができる。
- ・各単元の学習内容、事象を理解できる。

【学びを高める学習方法アドバイス】

(1) 学習方法

- ・授業の持ち物…歴史・公民の教科書、公民資料集、歴史ワーク、ファイル
- ・プリントの取り方…基本的に、黒板に書いたことは全てプリントに書き込みましょう。自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題も、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・家庭学習…課題で出された、配付されるプリントにしっかりと取り組む。(復習) 学習した範囲のワークをワークノートに解く。

(2) 授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・授業プリントやノートは黒板の内容を写すだけのものではありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったことも授業プリントやノートにメモをとりましょう。

【教科担任からのメッセージ】

2学期は、公民の政治や経済を中心に学習していきます。世の中の仕組みとは政治の仕組みであるとも考えられます。また、経済活動があって人々の生活が成り立っているわけです。だからこそ、これらの学習は生きていくうえで非常に大切な学習になります。また、これまで学んできた内容を総復習できるように頑張ってください。

(様式3)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけてもらいたい 学習内容・力	家庭学習 の要点
9 月	2	第1章2節私たちの生活と文化(2) ・私たちの生活と文化の役割、伝統文化と新たな文化の創造(1) ・多文化共生を目指して(1)	・日本の習慣や信仰を通して、伝統的な考えや文化と生活との関連性を理解する。	・伝統的な考えや文化が生活に与える影響について、理解できるようになること。	・教科書、ノートの振り返り ・ワークを用いた復習
	2	第1章3節現代社会の見方や考え方(2) ・社会集団の中で生きる私たち、決まりを作る目的と方法(1) ・効率と公正、決まりの評価と見直し(1)	・集団における課題を解決する方法として、きまりをつくり、守ることの意義を理解する。	・ルールをつくることや守ることの意味を理解できるようになること。	
	5	第2章1節人権と日本国憲法(5) ・人権の歴史と憲法(1) ・日本国憲法とは・国民主権と私たちの責任(1) ・国民主権と私たちの責任(1) ・平和主義の意義と日本の役割(1) ・基本的人権と個人の尊重(1)	・世界と日本の人権保障を相互に関連づけながら、基本的人権の理念の普遍性について理解する。 ・憲法が必要とされてきたのはなぜかを理解する。	・人権保障に関する歴史的なできごとについて、分類できるようになること。 ・憲法が必要な理由について、世界と日本の歴史から、理解できるようになること。	
10 月	5	第2章2節人権と日本国憲法(5) ・平等権(1) ・自由権(1) ・社会権(1) ・人権を確実に保障するための権利(1) ・「公共の福祉」と国民の義務(1)	・日本国憲法では、なぜ人権を保障することが大切なのかを理解する。 ・それぞれの人権の考え方、それらの考え方が成熟してきた歴史を踏まえて考える。	・自由権に関する条文が多い理由を理解できるようになること。 ・法の平等の下の平等の意味について理解できるようになること。	
	2	第2章3節これからの人権保障(2) ・新しい人権①(1) ・新しい人権②、グローバル社会と人権(1)	・新しい人権が認められてきたのはなぜかを理解する。	・新しい人権が生まれた背景について資料から読み取り、まとめられるようになること。	

	5	第3章1節現代の民主政治（5） <ul style="list-style-type: none"> 政治と民主主義(1) 選挙の意義と仕組み(1) 政党の役割(1) マスメディアと世論(1) 選挙の課題と私たちの政治参加(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治では、なぜ政治に参加することが重要なのかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 民主主義の発展について、歴史を通して理解できるようになること。 投票する意義について、主体的に考えられるようになること。 様々な政党がある理由について、理解できるようになること。
	4	第3章2節 国の政治の仕組み（4） <ul style="list-style-type: none"> 国会の地位と仕組み(1) 法律や予算ができるまで(1) 行政を監視する国会(1) 行政の仕組みと内閣(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 国の政治では、なぜ権力の分立が必要なのかを理解する。 三権とは何か、そのようなものなのかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国権の最高機関である国会の役割を理解できるようになること。 日本の議院内閣制の特色を理解できるようになること。
11月	4	第3章2節 国の政治の仕組み（4） <ul style="list-style-type: none"> 行政の役割と行政改革(1) 裁判所の仕組みと働き(1) 裁判の種類と人権(1) 裁判員制度と司法制度改革、三権の抑制と均衡(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 国の政治では、なぜ権力の分立が必要なのかを理解する。 三権とは何か、どのようなものなのかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国権の最高機関である国会の役割を理解できるようになること。 日本の議院内閣制の特色を理解できるようになること。 裁判の働きについて関心を高め、理解を深めることができるようになること。
	3	第3章3節 地方自治と私たち（3） <ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活と地方自治(1) 地方自治の仕組み(1) 地方公共団体の課題、住民参加の拡大と私たち(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 人々の声を政治に生かすために、私たちに何ができるのかを理解する。 地方自治について、地方公共団体の仕組みについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地方議会の仕組みや直接請求権の必要署名数を理解できるようになること。 地方財政の課題を資料から読み取り、理解できるようになること。
	5	第4章1節 消費生活と市場経済（5） <ul style="list-style-type: none"> コンビニエンスストアの経営者になってみよう(1) 消費生活と市場経済(1) 契約と消費生活(1) 消費者の権利を守るために(1) 消費生活を支える流通(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物（消費活動）で、なぜ消費者の自立が求められているのかを理解する。 消費者の権利、消費生活を支える物流について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済と生活の関連性に関心を高められるようになること。 消費者を守る様々な仕組みについて、理解できるようになること。
	4	第4章2節 生産と労働（4） <ul style="list-style-type: none"> 生産活動と企業(1) 企業の種類(1) 株式会社の仕組み(1) 労働の意義と労働者の権利、労働環境の変化と課題(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動では、なぜ労働者の権利を保障することが重要なのかを理解する。 企業とは何か、企業と経済活動の関連について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の種類と役割の違いを理解できるようになること。 労働に関する権利がなぜ保障されているのか、理解できるようになること。
12	6	第4章3節 市場経済の	<ul style="list-style-type: none"> 金融の働きは、なぜ私たちの生 	<ul style="list-style-type: none"> 価格が決まる仕組みについて、理解

月		仕組みと金融（6） <ul style="list-style-type: none"> ・市場経済と価格の決まり方(1) ・価格の動き(1) ・貨幣の役割と金融(1) ・私たちの生活と金融機関(1) ・景気と金融政策(1) ・グローバル経済と金融(1) 	<p>活にとって重要なのかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣と経済活動の関連、景気変動と金融機関の役割について理解する。 	<p>できるようになること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本銀行がどのような経済政策をおこなっているか、記述できるようになること。 ・外国為替相場の仕組みについて、理解できるようになること。
	4	第4章4節 財政と国民の福祉（4） <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と財政(1) ・財政の役割と課題(1) ・社会保障の仕組み(1) ・少子高齢化と財政(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の福祉にとって、なぜ財政が重要なのかを理解する。 ・今後の日本社会の社会保障のあり方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の仕組みについて、理解できるようになること。 ・社会保障制度の仕組みについて、理解できるようになること。

鎌ヶ谷市立第四中学校 第3学年 3学期 社会科 シラバス

【学習の目標等】

【第4章5節これからの経済と社会】

経済活動による負の側面の課題を解決する手段を考えるとともに、自然と調和した持続可能な社会を創っていくために必要なことを理解する。

【第5章1節 国際社会の仕組み 2節 さまざまな国際問題 3節 これからの地球社会と日本】

世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、国際連合をはじめとする国際機関の役割の重要性について理解する。地球環境、資源、エネルギー、貧困などの課題解決のために経済的・技術的協力が重要であることを理解する。

【評価の観点及び内容】

◆知識・技能

- ・授業の内容を理解するために必要な語句を覚え、意味を正しく理解できているか。
- ・資料に何が書かれているか読み取ることができるか。
- ・複数の資料を比較して、違いや特徴を読み取ることができるか。

◆思考・判断・表現

- ・資料や図からわかったことを自分の言葉でまとめることができるか。
- ・前の学習で覚えた知識を活用して考えることができるか。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・単元で学ぶ内容を習得するために、授業に粘り強く取り組むことができるか。
- ・単元の最初に提示した学習課題に対して、学んだことを活用して内容をまとめることができるか。

【評価の方法】

◆知識・技能

- ・テストなどによる知識を問う問題。
- ・テストなどによるグラフの読み取り問題。
- ・写真や絵図などの資料を読み取り、記述したり、まとめたりする問題。

◆思考・判断・表現

- ・テストなどによる思考力や判断力を問う問題。
- ・ペアやグループで話し合い、解決させる課題。
- ・プリントの課題に対して、自分なりの考えや意見などをまとめられる。

◆主体的に学習に取り組む態度

- ・プリントに記述すべき内容が記述されている。
- ・自分の意見や考えを書くことができ、またその意欲がある。
- ・授業やその中での活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・ワークに粘り強く取り組むことができる。
- ・学んだ内容を用いて、レポートや新聞などを作成することができる。
- ・各単元の学習内容、事象を理解できる。

【学びを高める学習方法アドバイス】

(1) 学習方法

- ・授業の持ち物…歴史・公民の教科書、公民資料集、歴史ワーク、ファイル
- ・プリントの取り方…基本的に、黒板に書いたことは全てプリントに書き込みましょう。自分で考えを書いたり、資料を読み取ったりする課題も、必ず自分の考えをプリントに記述しましょう。
- ・家庭学習…課題で出された、配付されるプリントにしっかりと取り組む。(復習) 学習した範囲のワークをワークノートに解く。

(2) 授業の受け方

- ・授業の中では、書く、聞く、話すという場面があります。書く場面ではしゃべらず、書くことに集中する。聞く場面では、話している相手のほうに顔を向けて聞く。話す場面では、調べた内容や自分の考えを相手にしっかりと伝える。話し合いのテーマと関係ない話はしない。
- ・授業プリントやノートは黒板の内容を写すだけのものではありません。先生の説明や友達の発表で興味・関心を持ったことも授業プリントやノートにメモをとりましょう。

【教科担任からのメッセージ】

3学期は、国際社会の分野を中心として学習していきます。国際社会の現状や仕組みを理解するとともに、より身近に感じてもらえればと思います。授業に主体的に参加して、授業等で学んだ知識を生かして、課題解決のための方策を考えてほしいと思います。また、ワークや問題集などを使いながら、これまで学んできた内容を総復習できるように頑張っていきましょう。それぞれ学んできた事柄を自分自身で説明できるようになるとなおります。

(様式4)

月	時配	学習する内容 (時数)	学習の目標・ねらい	この学習で身につけてもらいたい学習内容・力	家庭学習の要点
1 月	1	第4章5節 これからの経済と社会(1) ・公害の防止と環境の保全、経済の持続可能性と真の豊かさ(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済が私たちに何をもたらしているのかを理解する。 ・今後の経済活動のあり方について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を創るために、経済がどのような役割を果たすべきか、理解できるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ノートの振り返り ・ワークや問題集を用いた復習
	3	第5章1節 国際社会の仕組み(1) ・国際社会における国家(1) ・領土をめぐる問題の現状と国際連合の仕組み、役割(1) ・地域主義の動きと新興国の経済格差(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会では、なぜさまざまな仕組みが生まれたのかを理解する。 ・国際社会の現状を理解し、今後のあり方について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連合の各機関の役割について、理解できるようになること。 ・国際社会において、日本の果たすべき役割について、自分の考えを記述できるようになること。 	
	3	第5章2節 さまざまな国際問題(1) ・地球環境問題と資源・エネルギー問題(1) ・貧困問題(1) ・新しい戦争、難民問題(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会のさまざまな問題を解決するために、なぜ各国の協力が必要なのかを理解する。 ・現在の世界の課題、今後の課題を理解し、解決するための方策を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境と資源・エネルギーを関連させながら、日本や世界のエネルギー政策を考えることができるようになること。 ・貧困問題や世界で起こっている紛争の様子を知るとともに、戦争のない世界をつくる方法について考えることができるようになること。 	
	1	第5章3節 さまざまな国際問題(1) ・世界と協力する日本、より良い地球社会を目指して(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地球社会を創るために、私たちは何ができるのかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化が進展し、平和主義や国際貢献を日本の外交政策、重要方針とされていることを理解できるようになること。 	
	4	学習のまとめ(入試対策の演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を踏まえたうえで、より良い社会を目指して自分ができることを多面的・多角的に考えられる。 ・入試対策の問題演習を行い、資料を用いた問題など様々な問題に取り組み、学習内容の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い社会を創るために自らがすべきことを考えられるようになること。 	

2 月	6	学習のまとめ (入試対策の演習)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を踏まえたうえで、より良い社会を目指して自分ができることを多面的・多角的に考えられる。 ・入試対策の問題演習を行い、資料を用いた問題など様々な問題に取り組み、学習内容の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い社会を創るために自らがすべきことを考えられるようになること。 	
--------	---	-----------------------------------	--	---	--